

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4571700527		
法人名	医療法人吉誠会		
事業所名	グループホーム菜の花		
所在地	宮崎県都城市高城町穂満坊 4 5 6 - 3 (電 話) 0986-58-6677		
評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎県宮崎市原町 2 番 2 2 号		
訪問調査日	平成21年7月14日	評価確定日	平成21年8月28日

【情報提供票より】 (平成21年5月31日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成14年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	15 人	常勤14人, 非常勤1人, 常勤換算7.25人	

(2) 建物概要

建物構造	木造・鉄筋 造り
	2 階建ての 1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	21,000~24,000 円	その他の経費(月額)	実費 円
敷 金	有 (円)	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000 円		

(4) 利用者の概要(平成21年5月31日現在)

利用者人数	16 名	男性 0 名	女性 16 名
要介護1	5	要介護2	4
要介護3	3	要介護4	3
要介護5	1	要支援2	0
年齢	平均 88 歳	最低 73 歳	最高 103 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉見病院、吉見クリニック、山崎歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

周辺には、ホームを運営する法人の病院、老人保健施設やデイケア、公共施設、商店、民家がある。ホームの窓からは利用者が今までなじんできた霧島連山が一望でき、玄関前には、フェンス越しに隣の家のへちまが緑のカーテンを作り、季節感、清涼感豊かである。また、鶏も隣の畑に放されており、鶏の鳴き声が聞こえるのどかな一日が流れている。ホームの特徴として、全職員が利用者を自分の親と違ってケアを行っている。地域密着型サービスを目指して一歩ずつ歩き出しており、地域の文化祭へ作品を出したり、ハワイアンのボランティアを呼んだり、また、職員の踊りを披露する等の働きかけを行い、ホームの理解を深める活動を展開している。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価に対し、改善計画シートを作成して一部改善されている項目もあるが、具体的な取り組みについては、全職員で検討されておらず利用者支援のための工夫がなされていない。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員で検討している。配布された自己評価を基にそれぞれが記入し、業務会議等で話し合い、改善できるところから始めており、よりよいホーム作りに向けた取り組みを行っている。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議が定着し、参加者同士が顔なじみになっており、発言しやすい会議になっている。また、議事録作成もなされている。会議内容は、利用者の日々の生活の報告や参加者からの意見を聞き、建設的な意見は現場で生かせるようにしているが、参加者から評価の改善点についての意見は出ていない。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会の設立はないが、職員は利用者を自分の親だと思って支援しており、家族の訪問時には近況を報告したり行事等の写真を見てもらうなど、ゆっくりとでもなし、その会話の中で家族の思いをくみ取るよう努めている。来訪できない家族には電話で連絡している。金銭出納帳は、月に1回領収書を添えて家族に報告している。
重点項目④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	文化祭に作品を出したり、ホームの菜園で地域住民と一緒に花を見たり、草むしりをすることもある。近隣の散歩をする時は、地域住民と挨拶を交わしたりしているが積極的な交流はない。

2. 評価結果 (詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念の共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「なかよく、のんびりと、ハハハと笑い、なんでも一緒に過ごせる家」を目指し、利用者を自分の親とあってケアを行っている。また、地域生活の継続支援と事業所と地域の関係性強化をうたった理念を作りあげていない。	○	地域密着型サービスとして、地域住民との交流や地域とのかかわりを重視し実践しつつあるので、更に、地域住民の一員としての暮らしをとらえた理念として掲げ、実践されることを期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者、職員ともに利用者への生活支援の考え方は共通しており、理念に基づいて取り組んでいる。		
2・地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	散歩に行った時に地域住民とあいさつを交わしたり、ホームにハワイアのボランティアを呼んだりしている。ホームの菜園で利用者と地域住民と一緒に草取りをすることがあるが、自治会には加入しておらず、また地域の社会資源の活用も少ない。	○	ホームでの生活だけでは地域とのつながりが少なくなってくるので、地域とつながりながら暮らしていくことを積極的に取り組んでほしい。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価を全職員に配り、業務会議等で意見を聞いている。外部評価で課題となった項目については、改善計画シートは作成されているが、全職員での話し合いがなされていない。	○	改善計画シートを作成し、課題となった項目への取り組みがなされていることを知らない職員もいるので、今後は全職員で話し合い、改善に向けて具体案の検討や実践につなげる取り組みを期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は定着してきており、参加者同士が発言しやすい雰囲気の会議になっている。また、運営推進会議での意見を月1回の業務会議で職員に伝えている。評価への取り組み状況について、会議の中で報告されているが、委員から意見は出ていない。	○	事業所の活動状況や利用者の状況、外部評価結果の報告もされているので、今後さらに参加者から会議内容についての助言をもらったり、事業所との交流促進のための話し合いを行い、サービス向上に生かしていくことが望まれる。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村の担当者や関係機関との連携、連絡体制はできているが、運営推進会議以外の行き来はない。	○	市町村の担当者に折に触れて事業所の実情やケアサービスの取り組みを伝え、常日ごろから、不明な点があれば聞きやすい体制作りをしてほしい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	家族の来訪時には、利用者の近況報告をしたり、写真を見てもらっている。来訪できない家族には、電話で連絡をしており、ホーム便りも毎月発行している。金銭出納帳は月に1回、領収書を添えて家族に報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来訪時や運営推進会議に参加した家族に意見等を聞き、家族の思いをくみ取れるように職員は心がけている。	○	苦情箱の設置や介護相談員の訪問はあるが、ホームの管理者が直接の担当者となり、家族等の意見、苦情について、職員はもちろん外部者にも安心して表せる機会を積極的に作ってほしい。また、家族会の設立も期待したい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は少なく、やむを得ない職員の離職に際しては、他の職員が十分にカバーして対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修計画があり、法人内・外の研修に参加しており、伝達研修や復命報告もなされている。また、職員間で統一したケアサービスが行えるように講習会が行われている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県南地区のグループホーム連絡協議会への参加等により、同業者との連携を図ることにより、サービスの質の向上を目指している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	利用者や家族が安心してサービスを利用できるように自宅へ出向いたり、病院や施設に出かけて直接本人と顔を合わせ、ホームへ遊びに来てもらったりしながら雰囲気になじんでもらうようにしている。また留意点を文章化し、職員が確認、共有することで、柔軟な支援ができるようにしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者を自分の親と思って接しており、利用者から生活の技や経験を教えてもらうことが多い。野菜作りや昔の歌を習ったり、利用者からのいたわりや、励ましもある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の生活の流れを考慮して、今できることに着目した支援（墓参り、野菜収穫や利用者と一緒にゴミ出しや買い物、言語障害のある利用者と一緒に歌う等）を行い、寄り添うことで日々の行動や表情から言葉にしづらい思いをくみ取ることに努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月の業務会議等で、ケアのあり方や本人の好きなこと、本人や家族の意向を取り入れた計画を検討し、介護計画を作成している。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3か月に1回の見直しを行い、介護計画の遂行状況、効果等を評価するとともに、各記録から利用者の状態変化や家族、本人の要望に応じた見直しを行っている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	墓参りや家族、本人の状況に応じた通院や送迎等、必要な支援は柔軟に対応している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	緊急な場合の対応や定期的な受診等、適切な医療が受けられる環境が整備されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に向けた方針を早い段階から掛かりつけ医と話し合っあって共有しており、マニュアル作成もできている。また、状態変化に伴う家族や本人の思いに注意を払い、支援につなげている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者への丁寧な言葉かけが行われており、利用者一人ひとりを尊重したケアが行われている。個人情報保護の同意書もあり、記録の際はイニシャルが使われている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの個性や体調に配慮しながら、利用者の気持ちを尊重した支援を行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	昼・夕食は隣接の介護老人保健施設で調理されたものを利用者と一緒に配膳し片づけを行っている。ホームの菜園で収穫した季節の野菜は食卓にのぼるが、利用者と職員が一緒に食事を作り、食べることはない。職員は弁当持参で、おやつは利用者と一緒に作っている。	○	利用者と職員が同じ食卓で一緒に同じものを食べることは心を通じ合わせることができ大切な時間である。事業所の特性を踏まえて、利用者と職員が一緒に食事を楽しめる環境づくりを運営者を交えて前向きに検討してほしい。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めず、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には一日おきの入浴となっているが、希望があれば毎日の入浴は可能である。重度の利用者は3人介助で入浴を行っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	なじみの霧島連山を仰ぎ見たり、菜園づくり、洗濯ものたたみ、誕生会時の化粧、訪問美容、体操やレクリエーション等で楽しみごとを引き出す支援を行っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	近隣への散歩や、併設施設の行事や催しに参加している。職員の意識の向上もあり、花見ドライブを季節ごとに取り入れている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	共通の玄関には、施錠がしてあり、中庭で洗濯物を取り入れる時にも職員が携帯している鍵で施錠している。	○	日中、鍵をかけられ外に出られない閉塞感等のデメリットを運営者と全職員が認識してほしい。利用者の安全を確保しながら、日中鍵をかけない工夫をしていく取り組みに期待したい。

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回の火災訓練を行い、マニュアル作成はできているが、地域住民の協力体制はなされていない。	○	火災や災害時には、地域の人々の協力も必要となるので、日ごろより地域住民等と連携を図り、協力体制を築いてほしい。
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事は利用者個人に合った食事形態になっている。また隣接の介護老人保健施設の栄養士の指導による献立になっており、健康管理等においても連携がなされている。利用者の水分量については摂取量を職員が把握している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が安心して暮らせるように共用空間は工夫と配慮がしてあるが、ケース記録や事務用品が食卓の横に常設されていたり、トイレや浴室に液体洗剤等が置かれている。	○	菜園の野菜や季節の花、季節の飾り物が掛けられたりして居心地のよさや心身の活力を引き出す取り組みがなされているが、共用空間に記録類や事務用品等が置かれている。今後、共用空間の場としての環境を整える取り組みに期待したい。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者の希望に応じて、家族の写真や使い慣れた日用品、ホームで作った作品等が持ち込まれ、利用者が落ち着ける部屋づくりがされている。		

※  は、重点項目。